

Title	編集後記
Sub Title	编后语
Author	佐藤, 量(Satō, Ryō)
Publisher	「満洲の記憶」研究会
Publication year	2024
Jtitle	満洲の記憶 No.10 (2024. 12) ,p.226- 226
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32003001-20241200-0226

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

記念すべき第 10 号は、200 頁を超えるボリュームとなりました。引揚げ日記・手記の翻刻が 2 本あり、それぞれの解題に加えてご家族からも寄稿していただきました。福岡とハルビンでの調査記が 2 本、『引揚者在外事実調査票』の資料紹介が 1 本、そして大会参加記が 2 本と、第 10 号の節目にふさわしい充実した内容になっています。

本誌は 2015 年 3 月に創刊されました。試行錯誤を重ねながらもこれまで刊行し続けられたのは、引揚者の方々をはじめ多くの満洲関係者のご協力があったためです。創刊号の「創刊の辞」でも述べられている通り、本会の活動は関係各位のご厚意やご理解によるところが大きく、それは 10 年経っても変わっていません。本誌が刊行し続けられているのは、快く史資料を提供してくれる方や貴重な体験を語ってくれる方がいるからに他ならず、あらためて関係する皆さまに感謝申し上げます。

戦後 80 年が経とうとする現在、これまで以上に記憶や記録が散逸している現状があります。日記や写真、回想録、会報など、廃棄されたり未整理のまま埋もれたりしている史資料が無数にあります。これからも史資料の収集整理や満洲関係者への聞き取り調査に力を注ぎ、その成果を本誌で発信していきたいと考えています。

研究会の発足当初は大学院生メンバーが大半の駆け出しの研究グループでしたが、今では自分たちよりも若い世代との交流も始まっています。国内外の研究者と世代を越えて交流し、共に歴史を叙述する活動を継続していく所存です。

引き続き「満洲の記憶」研究会へのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。（佐藤量）